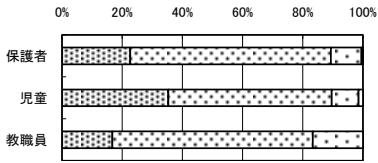


☑ 4 - そう思う ☑ 3 - どちらかといえば、そう思う ☑ 2 - どちらかといえば、そう思わない ☐ 1 - そう思わない

学校教育目標

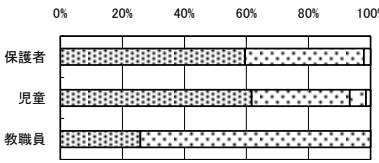
1 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者、地域にわかりやすく示していると思いますか。



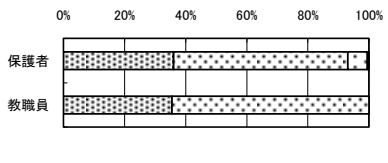
2 意欲的な学校生活

子どもは、楽しい学校生活が送れていると思いますか。



3 教師の連携協力

学校では、先生方が連携協力して教育活動に取り組んでいると思いますか。



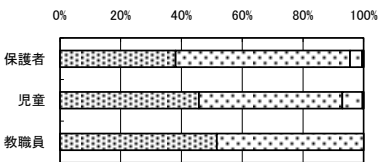
【学校から】

本年度の教育目標や教育方針は、地域や保護者に対して、PTA総会や学校のホームページ等の機会を利用して理解を進めていくようにしてきた。さらに、教育方針に沿った具体的な取り組みや子どもたちの様子は、各学年・学級通信やホームページ、懇談会等を通じて随時知らせるようにしてきた。新校舎の完成や改装が進んでいるので、学習活動の様子や学習成果を公表していくために、校舎内の掲示等をさらに充実させたり、地域へ発信していくことが必要である。また、社会性を培い、心身の健全な発達の基礎を作る視点から、思いやりやけじめのある生活態度の育成や、学力の充実と向上、健康生活の習慣化などの指導を行ってきたが、子どもたちの学校生活の充実を目指して、教師の教育活動についての十分な共通理解と共通実践をさらに進めていきたい。

教科指導

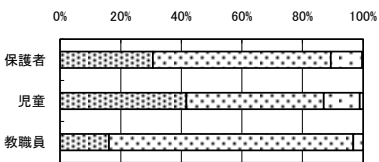
4 授業づくりの工夫

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



5 意欲的な学習態度

子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。

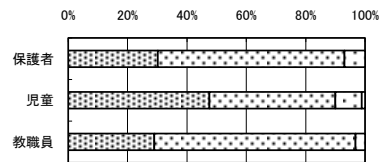


【学校から】「4 授業づくりの工夫」については、教職員はわかる授業、楽しい授業づくりに努めていると答えているが、児童の回答では「授業が分からない」「楽しくない」という子どもが約1割程度いる。また「5 意欲的な学習態度」でも、「意欲的でない」という回答がある。一人一人の児童の実態を把握し、興味・関心を高めながら能動的な学習活動を取り入れ、定着を図る必要がある。

総合的な学習の時間

6 総合的な学習の時間の充実

子どもは、総合的な学習の時間に意欲的に取り組んでいると思いますか。

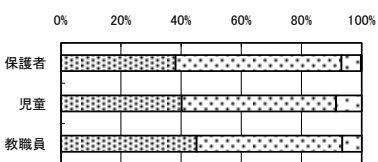


【学校から】新学習指導要領への移行に伴い、指導計画の見直しを行った。学ぶ力が確実に身につく、達成感が得られる学習の展開を進めていきたい。また、「学び方」を学年の発達段階に応じて指導していきたい。

道徳教育 心の教育

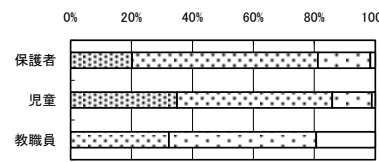
7 道徳、心の教育の充実

学校は、思いやりの心や感謝の心などを大切にしている心の教育の充実に取り組んでいると思いますか。



8 あいさつ、礼儀の励行

子どもは、あいさつがきちんとできていると思いますか。



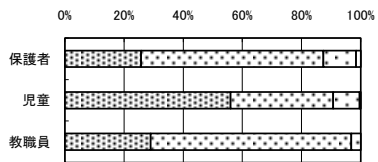
【学校から】

本年度、校内研修で全学年道徳の研究授業に取り組み、各教科との関連を図った授業ができ、子どもたちもいろいろな価値について、十分考えることができ、道徳の時間は、充実していた。また、全校一斉の公開授業や砂取ノートなどにより、保護者との連携も出てきている。あいさつについては、教職員が厳しい見方をしているのに対し、児童は、できていると思っている子が多い。今後は、子どもたちの実態を十分踏まえて、道徳教育の充実に向け、児童の実践力をつけていきたい。

人権教育

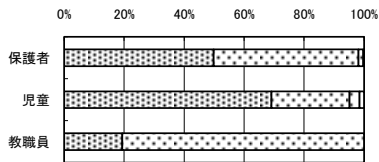
9 一人一人の生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にしている指導や対応ができていると思いますか。



10 友だちへの思いやり

子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。

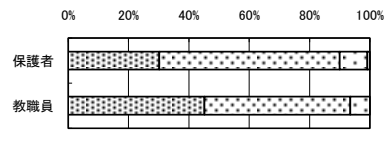


【学校から】児童の多くは、大切にされていると感じている。しかし、教師と保護者の認識はだいたい同じで、もっと個を大切にしている指導が課題であると考えている。また、友達と仲良くしているという子どもも多いが、特に、教師は、課題を感じている。これは、全体的にはできているが、一部の子どもたちに課題が多いと言えるようだ。これから、さらに個を大切にしている指導と道徳、学習や生活のなかで友だちへの思いやりを高めていく必要がある。

特別支援教育

11 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

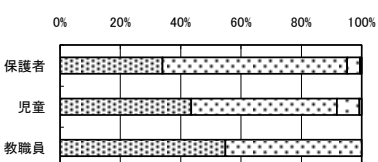


【学校から】全体として特別支援教育に対する理解は進んでいるが、学校側の保護者へ向けた啓発活動がやや遅れているようである。支援に必要な児童の実態把握、児童理解と支援体制の充実に取り組むと共に、保護者への啓発を進めていく必要がある。

生徒指導 教育相談

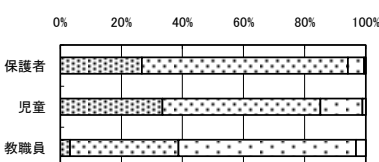
12 生徒理解

先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていると思いますか。



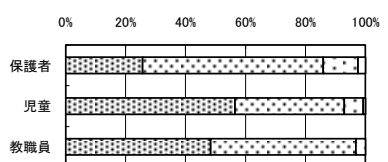
13 規範意識

子どもは、きまりやマナーを守っていると思いますか。



14 いじめや問題への対応

学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。



【学校から】「12 生徒理解」や「14 いじめや問題への対応」では、保護者、児童、教職員ともに高い評価を示している。さらに本年度は、児童の評価で10%近くの伸びを示したことは、保護者と連携を図りながら、日々の一つ一つのことに対応してきたからだと考えられる。反面「13 規範意識」では、保護者と児童では高い評価を示しているものの、教職員の「そう思う」という評価は半数を下回っている。昨年と比べると、児童及び教職員の評価は数%から10%近く下がっている。そこで、私たちは個々を尊重しながら共通した児童理解のもと、保護者や地域とさらに連携しながら、積極的に子どもたちと関わっていく必要があると考える。

健康教育 安全

15 安全と事故防止

学校は、子どもの安全と事故防止に努めていると思いますか。

16 体力向上

子どもは、すすんで外遊びやスポーツをしていると思いますか。

【学校から】
 交通の決まりについて子どもが理解をし、きちんと守り、安全に学校生活や登下校ができるように、校内の環境管理や子どもへの指導を工夫している。保護者や地域との連携を深めるために、学校での子どもの様子や、指導の様子をもっと学級・学年通信などでお知らせしていく必要がある。また、体力向上のためには、運動場が狭くなり、外遊びのスペースが減ったので、さらに体育の授業の工夫をしたり、業間の全校運動に取り組むなど、技能を高め、運動量を増や取り組みを実施していきたい。

学校行事

17 学校行事への参加と工夫

学校では、運動会や学習発表会などの学校行事が工夫されていると思いますか。

【学校から】
 行事の実施に向けて計画的に指導を進め、子どもたちが十分な目的意識と意欲を持って行事に参加できるようにしている。また、事前の取組の様子を学級通信等で知らせたり、日曜日に参観日を設け、校内音楽会を実施するなどの工夫をして、保護者の参加を促すようにしている。

学校環境

18 環境の整理・美化

学校では、校舎内外（花壇や掲示物など）がきちんと整理されていると思いますか。

19 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

【学校から】
 校舎建築工事の関係で、安全面に配慮する箇所があるが、工事関係者や学校職員で対応し安全確保に努めている。また、全職員で月1回安全点検を行い、施設・設備面での子どもの安全に努めている。学校環境には、緑化委員会・環境美化委員会・掲示委員会の子どもの活動を中心に学校環境に配慮している。また、保護者から緑化ボランティアを募り学校緑化活動に協力をしていただいている。校区に江津湖をかかえる環境を生かし、自然環境（野鳥を中心に）にも配慮した掲示を図り、自然環境に関心を高めたりする工夫をしている。

情報の公開・発信

20 学校の予定等がわかる情報発信

学校からの文書等で、学校の情報が十分発信されていると思いますか。

21 教育活動への参加

学校が公開している教育活動（行事、授業等）は、保護者や地域の方が参加しやすいと思いますか。

【学校から】
 各学年・学級から通信を定期的に発行し、日々の教育活動の予定や活動の様子等を知らせたりしている。また、学校のホームページでも行事予定や教育活動の様子が見れるようにしている。各家庭とは、砂取ノート等を利用して連絡を取り合うようにしている。これまでと同様に、「熊本教育の日」に対応して、2学期の授業参観と校内音楽会を日曜日に実施し、地域の人や保護者が参加しやすいように工夫した。また当日の授業参観では、本校が今年度特に力を入れて取り組んでいる道徳の公開授業を行い、参観者に、心の教育の要である道徳教育への理解と関心を高めてもらった。地域や保護者の方の教育活動への関心が高いので、行事予定の連絡を確実にしたり、行事への参加しやすい状況作りにも今後も努めたい。

家庭・地域との連携

22 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

【学校から】
 年度当初の4月に家庭訪問を実施し、また、休業期間中に教育相談の機会を設けたりして、連携協力を進めている。また、学級通信や砂取ノート（学校独自の生活ノート）等で保護者と連携を取りながら、子どもの実態を日常的に把握している。今後もそのようなスタンスを大事にし、日々の教育活動を進めていく。

来年度の具体的な取り組みについて

- ・安全面に関しては、「これで大丈夫」と言えるラインはない。常に気をくばり努力していきたい。特に子どもたちの目線に立った安全管理が必要であり、委員会活動を盛んにし、児童自身が自分を守るような知識を基に、安全に対する意識を向上させたい。
- ・たとえ一人でも、孤独であったり、人権が守られていない児童があつてはならない。教師保護者は互いに寄り添い、情報交換を行いながら児童の変化に気付くよう努力していく。特に学校においては、不登校対策委員会・教育相談部会の強化に努め、学校総体として努力していく。
- ・環境整備に関しては、教師自身がその必要性を強く感じており、計画性をもって取り組めばもっと良くなる可能性がある。環境整備担当、緑化担当を中心に年間を見通した計画を立て、取り組むことにより、更にすごい学校になると考える。

学校関係者評価

- ・授業作りの工夫や意欲的な学習態度の評価では、学年間かなりの差がある。子どもの授業への意欲をたかめたり、学習内容についての理解をさらに進めたいために、きめ細かな指導が大事である。
- ・学習の発表の態度や様子は、だいたいできるという評価だが、大人は、大人の目から見て100%できなければよく見えないという評価になりがちである。
- ・あいさつや規範意識については、心と形の問題であると考えている。「思い」は見えないが「思いやり」は見える。子どもたちが行動に出しやすい雰囲気作りが大事である。また、行動に表れたときに大人がしっかりと褒めることも大事である。
- ・今年から取り組んでいる無言掃除では、取りかかりが早くなったり、黙って行う子が増えているが、今話題の「トイレの神様」を取り上げたりして、トイレ掃除へのモチベーションを高めるなどもよい。
- ・保護者との連携では、学校の方針をしっかりと伝えるとともに、地域全体で学校教育に対する理解を進めていこうにしたい。
- ・教職員の不祥事が本校でも生じないように、その防止の徹底を図ってほしい。